



熊本地震で 立野ダム予定地が大規模土砂崩壊



地震で崩落した立野ダム本体予定地2016.4.19

今回の熊本地震で、阿蘇では大動脈である国道 57号と阿蘇大橋が大規模な土砂崩れで崩落しました。

そのすぐ下流の立野ダム本体予定地も両岸が大きく崩壊し、工事用道路や現場事務所、工事車両なども崩落した土砂に埋まりました。崩壊した土砂でせき止められた白川の流れの一部は、工事用の仮排水路トンネルの中を流れています。

もし、今回の地震が昼間に起きていたら、工事に従事していた多くの人命が失われていたのは明らかです。また立野ダム完成後にこの地震が起こったとしたら、ダム本体の両岸の地盤が崩れていたわけ

であり、ダム上流は多量の土砂や流木で埋めつくされ、ダムが損壊していた恐れもあります。

阿蘇外輪山が立野で切れた理由は、断層のはたらきで外輪山が落ち込んだからです。その後、中央火口丘からの溶岩で埋もれては、浸食のはたらきで削られることを繰り返して、立野峡谷は形成されました。今回の地震で動いた布田川断層帯は、阿蘇カルデラの中まで延びていたことや、新たな断層が見つかったことも報道されています。そのような地盤が安定していない火山地帯は、巨大なダム建設の立地条件としては最悪です。

国土交通省は、これまで「立野ダム予定地の岩盤は十分な強度がある」「立野ダム建設を行う上で特に考慮する活断層は存在しない」「地すべりは起こらない」等と主張してきたのですが、今回の地震でその全てが否定されたこととなります。にもかかわらず、同省は調査もせず従来主張を繰り返すばかりです。

立野ダムは、国の天然記念物である北向谷原始林の一部を含む、阿蘇くじゅう国立公園と阿蘇ジオパークの広大な自然を水没させます。洪水時には、幅わずか5mのダムの穴が流木等でふさがり、洪水調節不能になるのは明らかです。白川流域の治水対策は、立野ダムではなく河川改修を進めるべきです。国はダム建設を中止し、917億円の立野ダム事業費を、震災復興に充てるべきです。

【補足】「立野ダム予定地の岩盤は十分な強度がある」「活断層は存在しない」「地すべりは起こらない」等との国土交通省の主張は、下記国交省立野ダム工事事務所のページ「立野ダム建設事業に関するよくあるご質問について」をご覧ください。 <http://www.qsr.mlit.go.jp/tateno/index.htm>

立野ダムによらない自然と生活を守る会 総会資料

2016年6月5日

●活動のあゆみ(4年間の主な活動報告)2012年5月～2016年5月

- 2012年5月19日 「立野ダムによらない自然と生活を守る会」結成集会 40名参加
- 7月12日 九州北部豪雨。直後に現地調査、報告書や意見書等を作成。国や県等に提出
- 9月11日 国交省が「立野ダム建設事業の検証にかかる検討報告書(素案)」を提示
- 9月22日～「素案」に対する公聴会(熊本市、大津町、南阿蘇村)発言者30名全てがダム反対意見
- 9月22日 熊本市で「7・12白川水害を検証する会」と総会を開催 50名参加
- 12月1日 ブックレット「世界の阿蘇に立野ダムはいらない」発売開始
- 2013年1月19日 「世界の阿蘇に立野ダムはいらない」出版記念集会 80名参加
- 4月26日 熊本市で立野ダム問題緊急学習会(県議の会主催)130名参加
- 5月18日 立野ダム予定地現地見学会 70名参加。連続シンポジウム「世界の阿蘇に立野ダムはいらない」(大津町文化ホール) 100名参加
- 6月12日 白川改修計画(熊本県管理区間)現時点での住民案を熊本県に提出
- 7月16日 「阿蘇ジオパーク現地審査で立野峡谷と立野ダム計画について十分な調査と現地視察をお願い」する文書を阿蘇市長に提出(31日県に提出)
- 8月28日 「立野ダム促進陳情への抗議文」を熊本市、熊本県に提出
- 9月20日 連続シンポジウム part3「世界の阿蘇に立野ダムはいらない」160名参加
- 10月27日 南阿蘇村学習会(久木野庁舎)100名参加
- 11月29日 立野ダムを考えるつどい(県議の会主催)80名参加
- 2014年1月16日 立野ダム計画の説明責任を求める要望書を県に提出
- 3月14日 県と国に立野ダム建設中止を求める署名提出(7980人分)
- 3月16日 白川漁協臨時総会が立野ダム補償案受入れを了承。漁協への取り組み
- 4月16日 「阿蘇の世界遺産、白川郷に学ぶ」熊本市(県議の会主催)150名参加
- 7月12日 7・12白川大水害2周年「ダムより河川改修を」出版記念集会 100名参加
- 8月5日 立野ダム促進陳情の熊本市長に抗議。国交省、熊本県にも要請書提出
- 8月17日 第1回立野ダム予定地現地調査 200名参加
- 10月26日 世界の阿蘇に立野ダムはいらない大集会&パレード 150名参加
- 11月26日 国交省が立野ダム仮排水路トンネル工事安全祈願祭。阿蘇中岳が火山活動を活発化
- 12月19日 国交省に立野ダム仮排水路着工に対する抗議文を提出
- 2015年2月28日 緊急学習会「阿蘇火山と立野ダム」80名参加
- 3月14日 映画「ダムネーション」上映会 50名参加
- 6月5日 高森町にて立野ダム問題学習会
- 7月8日 熊本市長宛の要望書提出 高田副市長が対応
- 7月12日 シンポジウム「河川改修と立野ダムの必要性は」130名参加
- 7月22日 国交省開示データ分析「河川改修で立野ダム不要」要請書を提出、記者会見
- 7月25日 南阿蘇村で立野ダム問題学習会(白水庁舎)40名参加
- 9月29日 報告集会「鬼怒川の堤防決壊から白川の安全と立野ダムを考える」100名参加
- 10月4日 第2回立野ダム予定地現地調査 170名参加
- 11月10日 財務省に「国営立野ダムに予算をつけないことを求める要請書」提出
- 11月26日 国交省に「立野ダムの穴の流木対策に関する公開質問状」を提出
- 2016年2月11日 ブックレット「阿蘇ジオパークに立野ダムはいらない」を出版
- 2月27日 連続シンポジウム「立野ダムで阿蘇・熊本があぶない」100名参加
- 4月14,16日 熊本地震。直後に現地調査、報告書や要請書等を作成。国や県等に提出

●会計報告(2012年5月19日～2015年12月31日まで)

収入の部	金額	備考
年会費・カンパ	2, 132, 867	
合計	2, 132, 867	

支出の部	金額	備考
郵送費、印紙代	642, 105	会報発送、資料発送、情報公開
事務用品費	140, 002	紙代、封筒代、プリンターインク代等
ブックレット購入	334, 846	流域首長、議員等に送付
チラシ作製配布	731, 130	A4版両面印刷1枚約2円、チラシ配布
その他	280, 015	講師謝礼、会場費、印刷機使用料他
合計	2, 128, 098	

収支 (収入) 2, 132, 867 - (支出) 2, 128, 098 = 4, 769円

●会計監査報告

2016年5月18日に会計監査を行い、帳簿、書類、現金、預金等の結果収支は正確であり、誤りのないことを認めます。

2016年5月18日 会計監査 _____ 印

●今後の活動計画(案)

1. 学習会を多くの場所で開催し、立野ダム問題について多くの人に伝える。
2. ダム問題や阿蘇・白川・有明海についての調査活動を継続する。
3. 行政や議会に対しての要請活動を継続する。
4. 現地調査(年1回)、集会(年数回)を継続する。
5. ホームページ等を充実させ、情報発信に努める。会報を年数回発行し、会員拡大を進める。

●事務局体制(案)

代表 中島康(熊本市)
 副代表 松本久(南阿蘇村) 中島熙八郎(熊本市)
 事務局長 緒方紀郎(熊本市)
 事務局次長 山野徹(熊本市) 布山光孝(大津町) 原田敏郎(熊本市)
 会計 緒方紀郎(熊本市)
 監事 赤木光代(熊本市)

●2016年度予算案

収入の部	金額	備考
年会費・カンパ	300, 000	

支出の部	金額	備考
郵送費、印紙代	150, 000	会報発送、資料発送、情報公開費
事務用品費	30, 000	紙代、封筒代、プリンターインク代等
チラシ作製	80, 000	A4版両面印刷1枚約2円
その他	40, 000	会場費、印刷機使用料等
合計	300, 000	

連続シンポジウム

「立野ダムで阿蘇・熊本があぶない」

2月27日、連続シンポジウム「立野ダムで阿蘇・熊本があぶない」を開催しました。立野ダムが阿蘇や熊本にとって非常にあぶないことが、残念なことに今回の熊本地震で証明されたこととなります。

シンポジウムの後半の、阿蘇・白川・有明海からの報告や訴えが、これまでにない内容で、とてもよかったと好評でした。



河内漁協 木村茂光さんの訴え 2016.2.27

国交省・熊本県・熊本市に対し立野ダム中止要請



熊本県への要請書提出 2016.5.10

立野ダム建設予定地がこれだけ大変な状況になっているにもかかわらず、国交省担当者は「仮排水路トンネルもほとんど完成し、ダムサイト自体の岩盤もしっかりしており、現時点では着工時期などが遅れるほどの影響があるとは考えていない」と話していると報道されています（日刊建設工業新聞 2016年4月20日）。

4月28日、国交省立野ダム工事事務所に「人命・財産を危険にさらす立野ダム建設の即時中止を求める要請書」を提出しました。今回の地震が昼間に起こっていたら、工事に従事していた多くの人命が失われていたのは

明らかです。今後も大きな地震の発生が指摘されている中で、もし工事を再開などすれば、事業者は刑事上の責任を問われることもありえます。そこで、「立野ダム建設を即時に中止すること」「立野ダム建設予定地周辺の岩盤や活断層、地すべりなどについての十分な調査を行い、流域住民に対し説明責任を果たすこと」の2点を強く要請しました。

5月10日には熊本県知事に対し、「国土交通省にダム建設中止を求めること」「今後の立野ダム事業予算の執行を直ちに停止し、国道57号や阿蘇大橋、依山トンネルの復旧をはじめ、震災復興に充てることを国土交通省に求めること」「白川流域の治水対策は立野ダムを建設するのではなく、河川改修などダムにたよらない治水対策を進めることを国土交通省に求めること」の3点を要請しました。5月17日には熊本市長に対し、「白川改修・立野ダム建設促進期成会」の名称変更等を含む同様の要請書を提出しました。

編集後記 先月の熊本地震で被災された皆様方に、お見舞いを申し上げます。地震の被害で、多くの公共施設や病院、役所、学校等も被害を受けました。これまで、ムダなダム建設に税金が投入され、公共施設の耐震補強を怠ってきた結果です。917億円の立野ダム建設事業費を、震災復興と公共施設の耐震補強に充てるべきです。6月5日に総会と緊急学習会を熊本市のパレアで開きます。総会では、これまで4年間活動してきた様々な写真をスライド上映します。ストップ立野ダムに向けた今後の活動についてもたくさんのご意見をいただきたいので、ぜひご参加ください。会報の2～3ページに総会資料を印刷しています。参加できない方は、ご意見をお手紙等でいただければ幸いです。(N.O.)